



秘密指定解除

公文書監理室

ア337 局長  
見込 少官  
と 務 少官  
北東ア337 課長

韓国人被爆者林福順等について

昭和44.2.13

1. 13日 厚生省公衆衛生局企画課(森本佐)

より前件に関し以下のとおり連絡があった。

被爆者と称する<sup>(韓国人)</sup>林福順(女37才)歳粉

連(女36才)の2名が春日(経緯は別添(中国

新聞)のとおりであるが、2名は昨年12月より

島原爆病院に入院。現在加療中である。

現在2名は病院に対し、原爆医療後の適

用を主張しており、民社党代議士が支援

するとの噂もあるので、外務省に approach ありに

る場合はお知らせありたい。

なお、2名が原爆病患者であるかどうか等

診断の結果がわかればお知らせする。

2. なお、同補佐より 韓国被爆者に対する

医療協力の進み具合を尋ねたので、5名程

度の研修員受け入れ可、<sup>供与</sup>器材不可との考え方を

を説明すると共に、医療協力の件は技協

の管理下である旨連絡しおいた。

28日、事件について厚生省は衆衛生局企画課

に照会し、によるところのとおり。

1. 26日、厚生省にも<sup>けい</sup>山田広島平長が来訪。

巖粉連、林福順の2名の援護を依頼し

たので、2名については医療法適用は無

理である旨答えた由。

2. なお、広島原爆病院では2名とも原爆

被爆者とは断定出来ない(被爆症なし)

との診断の結果を出している由。

3. 2名とも3月7日に在留許可が切れるので

核禁会議等の働きかけは活発になる

ものと思われる。

# 「原爆病院で治療を」

## 二人の被爆韓国女性

二十三年前、広島で被爆した二人の韓国女性が「原爆病院でさび治療を受けたい」と十日午後、広島にやってきました。被爆者二人は「山山西区「二河」と林福順さんら」ソウル市東区に居滞り、八日、五時に行方不明。次いで原爆病院は韓日協会に参列する韓国代表の一員として日本を訪れた。

# 23年ぶり広島入り

二人は原爆病院の安田院長を参列し、女としての身振りを示す。



「病院でみてもらおうのが念願」と話す二人さんと林さん

物上格を飾り、同市三篠町二千八人が、韓国には広島、三浦で被爆して韓国した人が一万人並くいるといわれている。被爆者たちは自分たちの苦痛を訴えても、韓国ではなかなか理解してもらえないため、日本で治療を受けたいと望んでいる人も多いという。

十月午後三時五十分、広島原爆の年の特報「つばさ」で京都から二人を参列させた。

林さんは広島市立第三国民学校（高島）に現在の安田中学校在学中、勤務員で家庭訪問作業に出かけて前後所付近で被爆。両脚をひどくやけどした。骨になるまで、からだがかたく、今は漸く歩行できる生活。「一度からな中を全部やめたい、六歳のころは「つばさ」だ。

二人は韓国原爆被害者援護協会副会長、被爆者救済活動部副部長の林福順さんと共に参列した。

ら広島に参列した二人は、出迎える親類の人たちと手を取り合い、涙を流して二十三年ぶりの再会を喜んだ。

自分、親類の家に身を寄せ、滞在制限の許す限り広島市に滞在するが、二人とも「原爆病院で診察・治療を受けるのが願いです。戻るものなら完全に帰して帰国したい」と話していた。